

第 97 回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成 25 年 1～ 3 月期実績・平成 25 年 4～ 6 月期見通し)

1. 調査時点 平成 25 年 3 月 1 日～ 3 月 7 日
2. 調査対象企業数 174 社中回答 174 社 回答率 100.0%

区 分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製 造 業	従業員 300 人以下	39	39	100.0
建 設 業	〃	43	43	100.0
卸 売 業	従業員 100 人以下	7	7	100.0
小 売 業	従業員 50 人以下	54	54	100.0
サ ー ビ ス 業	〃	31	31	100.0
合 計		174	174	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課 (TEL. 0146-22-4114、内線 621)
〒057-0013 浦河郡浦河町大通 2 丁目 31 番地 2

全業種総合 174 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期 (平成 25 年 1～3 月期) の業況判断D Iは△55.2 と、前期 (平成 24 年 10～12 期) 比 20.7 ポイント下降した。3 四半期続いた改善の動きが一服し、ほぼ 1 年前の水準(平成 24 年 1～3 月期△56.3)に戻った。全業種で悪化傾向がみられ、卸売△71.5、小売△70.3、建設△55.8、サービス△45.2、製造業△38.5 のマイナス水準となった。

売上額D I △65.0 は、前期比 40.9 ポイント、収益D I △21.7 は、同比 12.6 ポイントそれぞれ下降している。売上額、収益はサービス業を除き他の 4 業種で悪化となっている。

来期 (平成 25 年 4～6 月期) の予想業況判断D Iは△38.5 と、今期実績比 16.7 ポインの上昇見通しとなっている。業種別にみると、小売△48.1、卸売△42.9、建設△39.5、サービス△32.3、製造△28.2 と来期を見通している。

【業種別天気図】

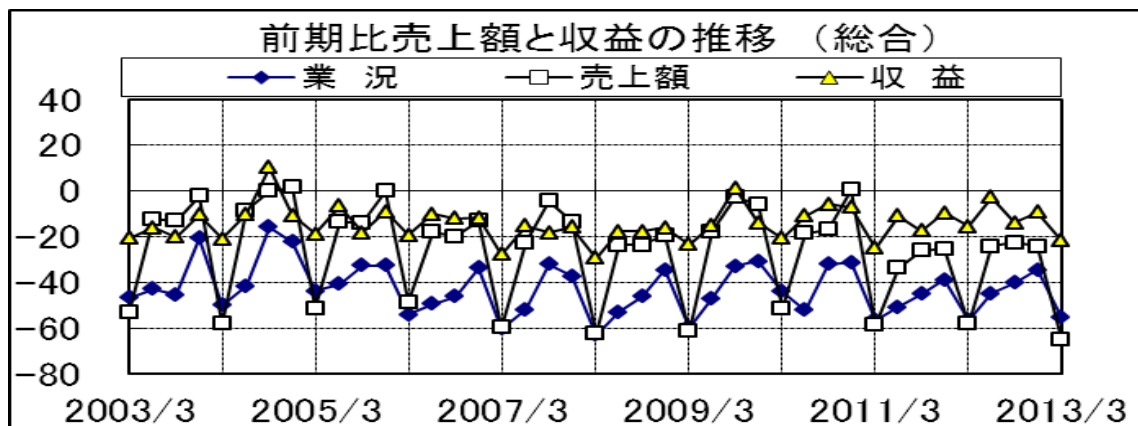
時期 業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	24 年 7～9 月	24 年 10～12 月	24 年 1～3 月	25 年 4 月～6 月見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						
<p>好調 ← → 低調</p> <p>この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。</p>						

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-40.2	-34.5	-55.2	-38.5
売上額	-22.4	-24.1	-65.0	-11.5
収 益	-13.7	-9.1	-21.7	-22.5

全業種総合の今期の業況判断DIは△55.2と、前期比20.7ポイント下降した。3四半期連続の改善は一服し、ほぼ1年前の水準(△56.3)に戻った。地区別に見ると、全地区で下降の動きとなっているが、静内地区で最も低い水準となっている。

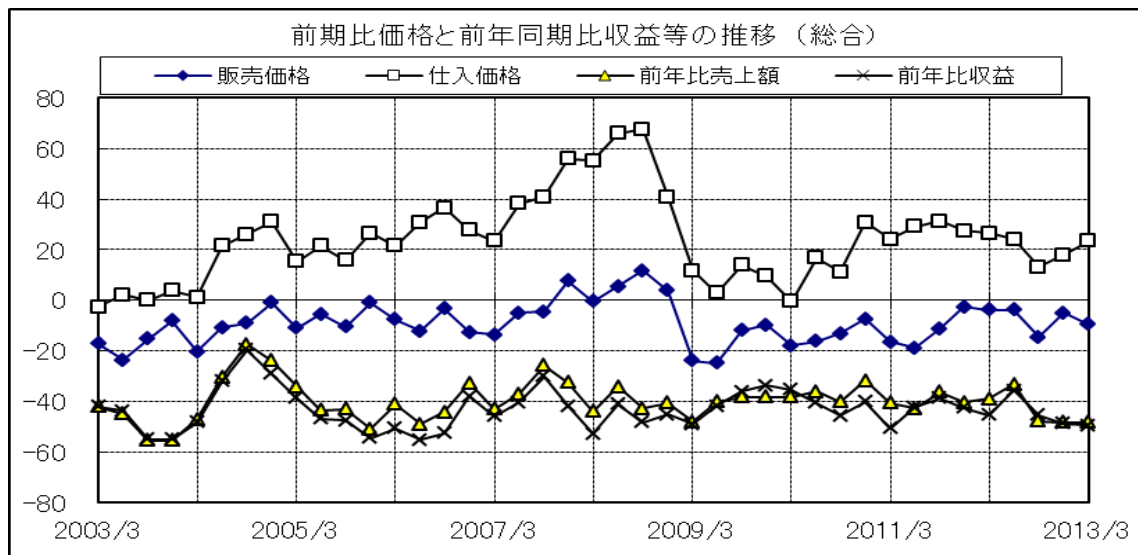
売上額判断DI△65.0は前期比40.9ポイント下降した。収益判断DI△21.7は同比12.6ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	-14.6	-5.1	-9.7	-2.9
仕入価格	13.2	17.9	23.5	20.2

販売価格判断DIは△9.7と、前期比4.6ポイント下降、価格低下基調を強めた。仕入価格判断DIは23.5と、前期比5.6ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、販売価格は製造、建設、卸売、サービス業で下降し、小売業は上昇となった。仕入価格は、建設、サービスで上昇し、製造、卸売、小売業は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-12.6	-8.0	-17.7	-14.9
人手状況	-3.4	-10.3	-8.1	-9.8

残業時間判断DIは△17.7と、前期比9.7ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断DIは△8.1と、前期比2.2ポイント上昇し、人手不足感を弱めた。

□ 設備投資の動き

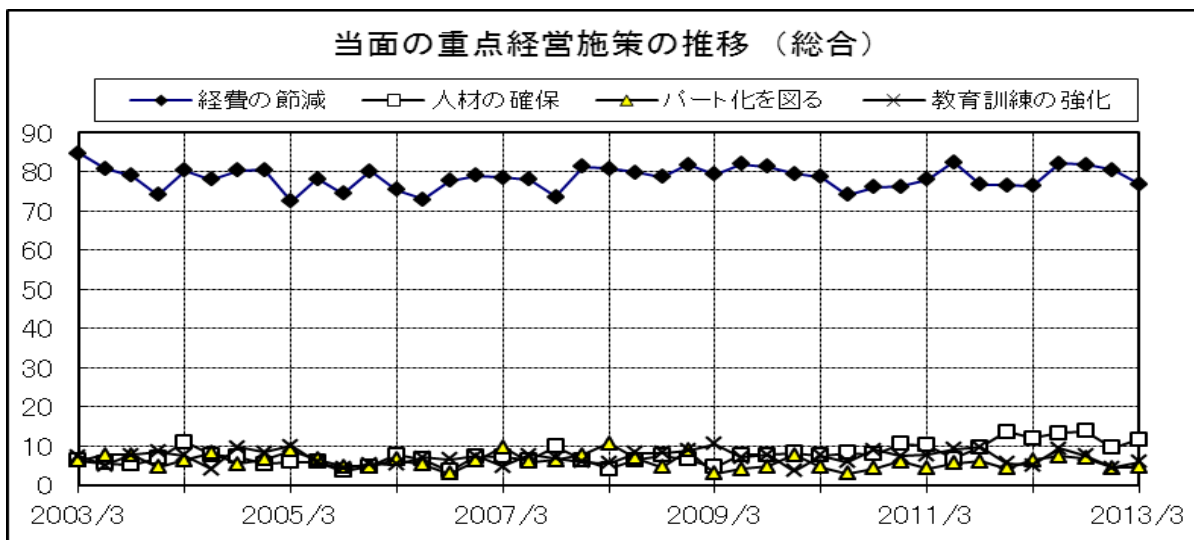
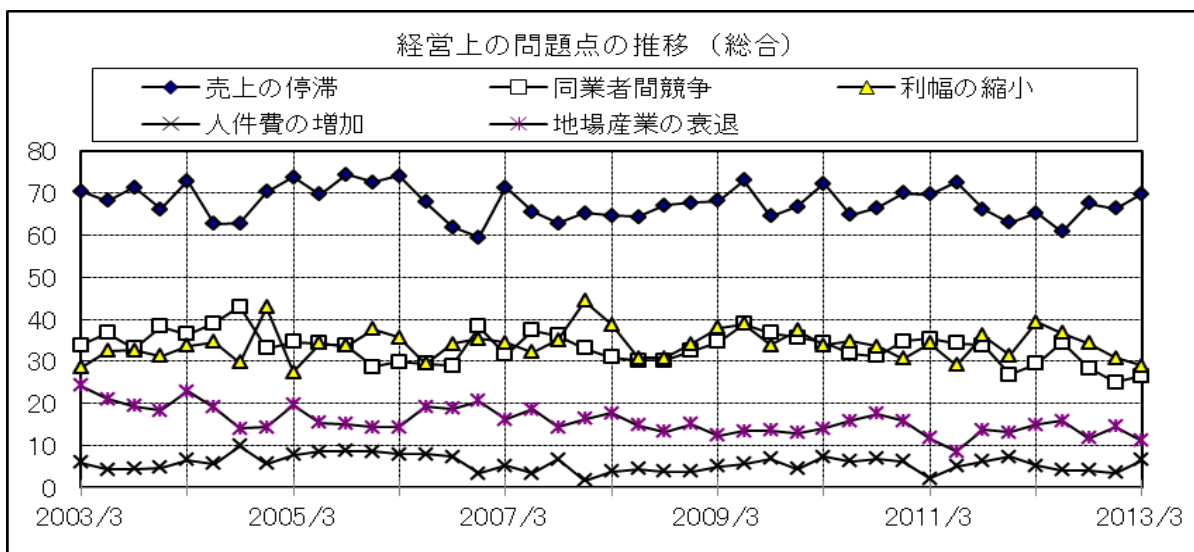
設備投資の充足感を示すDIは△14.3と、前期△14.4から0.1ポイント上昇、ほぼ横ばいの不足感となった。

設備投資実施企業割合は14.4%と、前期13.2%から1.2ポイント下降、前期の23社に対し25社の実施となった。来期の設備投資は、24社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」が69.8%で最も多く、次いで「利幅の縮小」29.0%、「同業者間との競争」26.6%、「地場産業の衰退」11.2%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」が76.8%で突出している。次いで「人材の確保」11.6%、「教育訓練強化」5.8%、「パート化を図る」、「不動産の有効活用」が同率の4.5%となっている。また、「特になし」とするものが10.9%あった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断DIは△38.5と、今期比16.7ポイント上昇の見通しとなっている。

予想売上額判断DIは△11.5と、今期比53.5ポイントの大幅な上昇見通しとなっている。予想収益判断DIは△22.5と、今期比0.8ポイントの下降を見通している。予想販売価格判断DI△2.9は、今期比6.8ポイント上昇し価格低下基調が弱まる見通しとなっている。また、予想仕入価格判断DIは20.2と、今期比3.3ポイント下降し、価格上昇基調が弱まる見通しをしている。

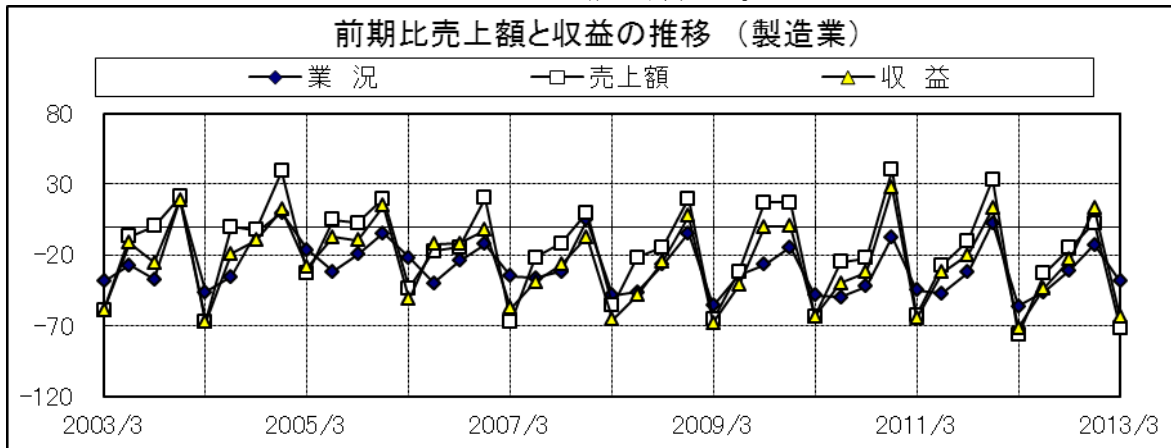
製造業 39企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-30.8	-12.9	-38.5	-28.2
売上額	-15.3	2.6	-71.8	-12.8
収 益	-23.1	12.9	-64.1	-18.0

今期の業況判断DIは△38.5と、前期比25.6ポイント下降した。3期連続の改善は一服した。地区別に見ると、えりも地区で上昇したが、浦河、静内、広尾地区で下降、三石、様似地区は、ほぼ横ばいとなっている。

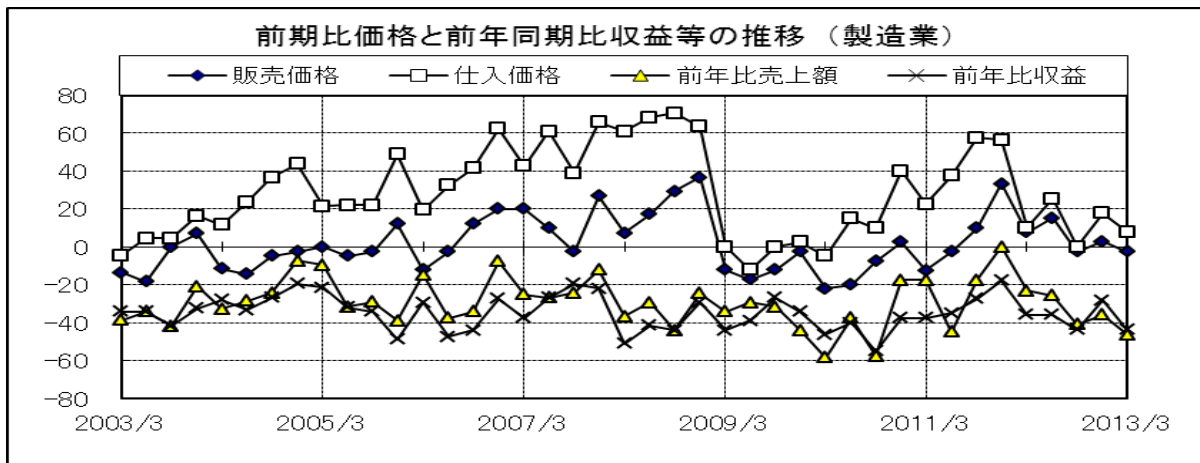
売上額判断DIは△71.8と、前期比74.4ポイント、収益判断DIは△64.1と同比77.0ポイント、ともに大幅に下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	-2.6	2.7	-2.6	2.6
仕入価格	0.0	17.9	7.8	25.5

販売価格判断DIは△2.6と、前期比5.3ポイントの下降となり、価格低下基調に転じた。仕入価格判断DIは7.8と、前期比10.1ポイントの下降となった。業種別にみると、食品は販売、仕入価格ともに下降し、木材は販売、仕入価格ともに上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-5.1	0.0	-12.8	-15.4
人手状況	-10.2	-2.5	-7.7	-5.1

残業時間判断DIは、前期比12.8ポイント下降。残業時間が減少したとする企業割合が増加した。人手過不足判断DIは△7.7と、前期比5.2ポイント下降し、人手不足感を強めている。

□ 設備投資の動き

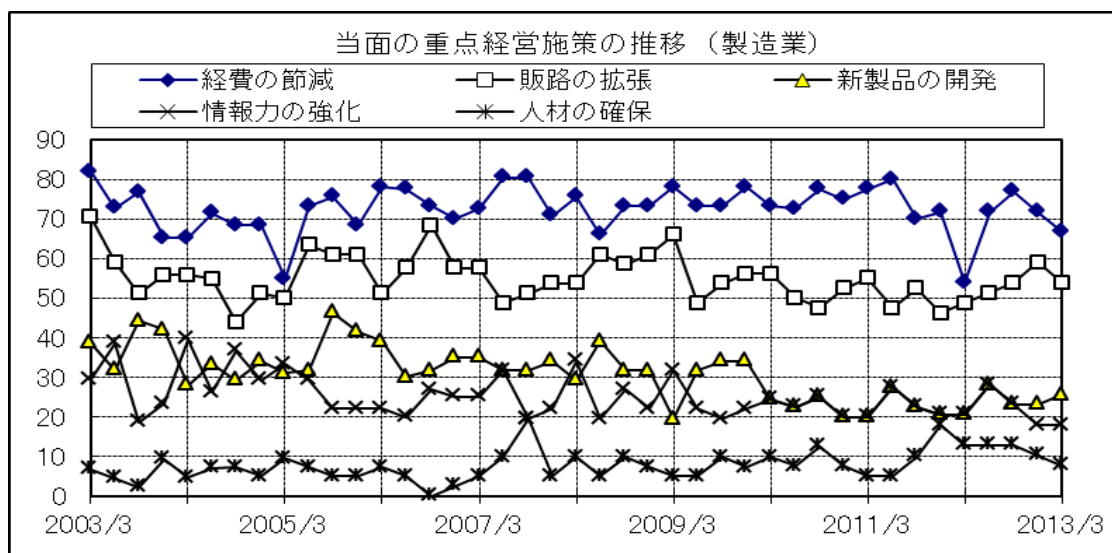
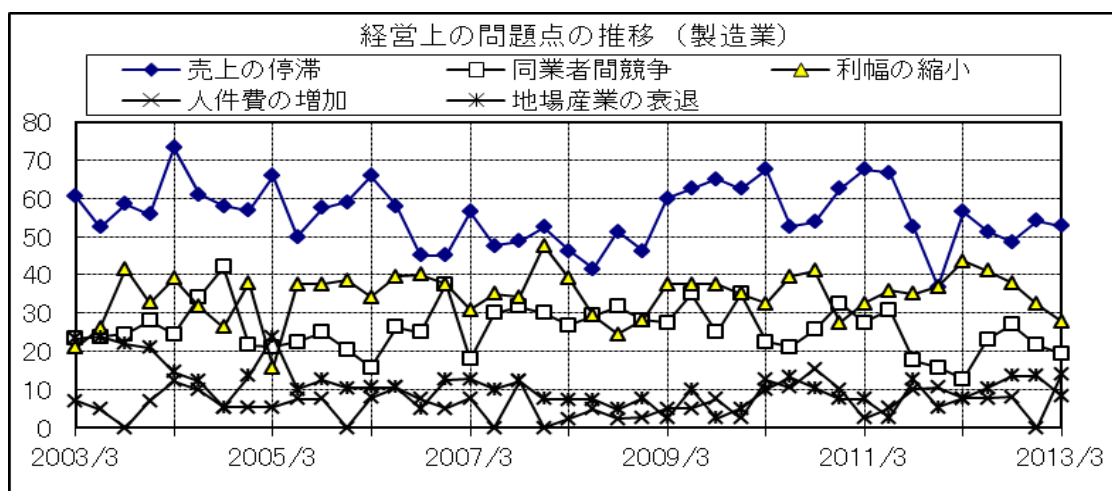
設備投資の充足感を示すD Iは△15.4 と、前期比横ばいの値となった。

設備投資実施企業割合は12.8%と、前期比2.5ポイント上昇し、前期の4社に対し5社の実施となった。来期の設備投資は、7社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ52.8%、次いで「原材料高」44.4%、「利幅の縮小」27.8%、「工場機械の老朽化」22.2%、「同業者との競合」が19.4%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ66.7%、次いで「販路の拡張」53.8%、「新製品を開発する」25.6%、「情報力を強化する」17.9%の順となっている。また、「特になし」とするものが12.8%あった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは△28.2 と、今期比10.3ポイントの上昇見通しとなっている。予想売上額判断D I △12.8 は、今期比59.0ポイントの大幅な上昇を見通している。また、予想収益D Iも△18.0 と、今期比46.1ポイントの大幅な上昇見通しとなっている。予想販売価格判断D Iは2.6 と、今期比5.2ポイントの上昇見通しとなっている。予想仕入価格判断D I 25.5 は、今期比17.7ポイントの上昇を見通し、予想販売価格・仕入価格判断D Iともに価格上昇基調見通しとなっている。